

第 51 回 ITER 機構職員募集説明会での Q&A

1. 日時・場所

平成 24 年 4 月 20 日 (金)

東海会館 (日本原子力学会北関東支部総会 会場)

2. 来訪者 : 19 人

3. 説明概要 :

日本原子力学会 北関東支部総会ポスター発表会場の展示エリアにおいて、ITER 機構職員募集及び登録の案内を行うとともに、学会参加者に資料を配布した。

(ITER 協力調整グループ 上野、森山、斉藤)

4. 主な Q&A

Q1:現在、ITER 機構で働いている日本人は何人ですか？

A1: ITER 機構の日本人職員は 3 月末現在で 35 人です。内 28 名が専門職員で、7 名が支援職員です。

Q2:日本人職員数は ITER 機構で働く職員全体から見てどのくらいの割合になるのですか？

A2: 2012 年 3 月末調べによれば、全 IO 職員数が 470 名です。

Q3: (ポスターの写真見ながら) ITER の建設が進んでいるようですが、現在の工事はどこまで進んでいるのですか？

A3:南仏プロバンス地方のカダラッシュにある ITER 建設サイトでは、2010 年 8 月に建屋の基礎工事が本格的に開始され、その後順調に進展しています。ITER 装置本体が設置されるトカマク複合建屋のピット (幅 90m、長さ 130m、深さ 17m) では掘削作業が完成し、ピット内壁設備と免震用ベースマット (コンクリート 100,000 m³、鉄筋 3,400 トン) の設置作業が今年 4 月に完了しました。また、直径 5m から 24m のポロイダル磁場コイル (ニオブ-チタン製) を制作する巻き線建屋 (幅 49m、長さ 257m、高さ 18m) も今年 2 月に完成しており、最初のポロイダル磁場コイルの巻き線作業が間もなく開始される予定です。更に ITER 機構職員が働く ITER 機構本部ビル (地上 5 階・地下 1 階、高さ 20m、長さ 180m) の工事も今年秋には完成の予定です。

Q4: ITER 実験炉の運転期間はどのくらいですか？

A4: ITER のスケジュールは建設に 10 年、実際の運転期間は 20 年です。その後廃止措置に 5 年を予定している長期の研究開発プロジェクトです。

Q5: 日本が分担している機器があれば教えてください。

A5: 日本が分担する調達機器は、多岐にわたります。パンフレットにも紹介されていますが、中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置などです。

以上



日本原子力学会 北関東支部総会ポスター発表会場の展示エリアの様子